

第7回北方学園開校準備委員会 会議要旨

と き 令和4年8月2日

ところ 役場2階 大会議室

※会議の主な内容は以下のとおり

事務局：定刻どおり第7回北方学園開校準備委員会を始める旨を告げる。（9時30分開始）

教育長：会議に先立ち、あいさつを述べる。また、北方学園構想の進捗状況について報告する。

委員長：あいさつを述べる。

委員長：次第に基づき、各部会での今年度の協議内容について説明を求める。

各部会長：資料をもとに各部会より今年度の協議内容について説明を行う。

委員長：北方学園構想の進捗状況及び各部会からの報告に対し質疑応答を行う。

（主な協議内容）

○各部会で先生方が本当によく協議されていると思います。これまで高めてきた気運が、先生方の異動によって下がらないように配慮していただけるとよいと思います。北学園内にはこども園もできるということで、こども園に通園する園児がそのまま学園に上がってくることから、学園のPTA活動にもつながっていくこととなるため、こども園で丁寧に指導していただけるとよいと思います。

○9年間のカリキュラム検討委員会では、学習のつまずきアンケートを実施し、子どもたちがどこでつまずき、どういう結果がでるのかといったことについて、先生方で話し合われたということは大変大きいと思います。最初につまずきポイントをしっかり把握し、その後の検討課題を作るということは大変ありがたいことです。中学生になると、何が分からないのかが分からなくなり、1つでもそういったことがあると授業が楽しくなくなり、また他の授業にもそれが連鎖し、学習意欲がなくなるということが一番大きいと思いますので、こういった取組により、子どもたちのつまずきを軽減し、高学年から中学生にかけて、勉強することが楽しくなるような授業を行っていただけるとよいと思います。

⇒子どもたちに勉強が分かって楽しいと思わせることが本質であり、そのためにカリキュラムの充実化を図っていますので、できるだけご期待に添えるようにしたいと思います。義務教育学校で1年から9年までのカリキュラムの見通しがあること、職員が一体となり子どもたちの実態が分かっていることが非常に大きな側面であります。また、仕組みとして3部制となり、4年生までは基礎の定着を図り、5・6・7年生では9年間を見通した中で少し学び直しができるようになります。今までは小学校から中学校へ上がると、前のところを復習するということがカリキュラム上もなかなか難しく、子どもの実態も職員が小

学校と中学校で違い分りにくいということがありましたが、そのあたりの解消が見込めるということで、時数調整をしながら復讐の時間をやや多めに取るとか、子どもたちの実態について、前期課程の職員にどういったところにつまずいているのかを尋ね、逆にこういう示し方をすると理解がしやすいなどの情報交換ができるようになり、そういうことを活用しながら、子どもたちが分かる楽しさをより味わえるようにしていきたいと思えます。カリキュラムマップは形として大事にしながらどう運用していくのかが実際の課題になっていくと思えますので、検討委員会の先生方にも、あなたたちは作るだけではなく、なぜこれを作っているのかを知っているので、ぜひ学園でもそれを大事にしながら、他の先生方にもマップの活用の仕方を働きかけてほしいということをお願いしています。

○英語教育推進部会の今後の活動予定の中で、11月に小学校6年生を対象に英語フェスタを開催するとありますが、どういった内容になりますか。昨年度もとても楽しかったと聞きました。毎年恒例にさせていただけるとよいと思えます。

⇒まず子どもたちに英語は楽しいと思ってもらうために、英語落語会を行います。また、北方中英会話部が主体的に参加し、中学校生活について英語で紹介してくれたり、iPadを使った英語クイズを行ったりする予定です。勉強ではなく、日常生活で英語が必要だから使うという形で実施したいと考えています。

○北方科で、子どもたちが自分たちの住む町のことを勉強できるということは大変よいことだと思います。子どもたち以外の大人も北方科に大変興味を持っています。生涯学習センターにて、社会人向けの講座を実施していると思えますので、大人対象の北方科を学ぶ講座を設けてはどうでしょうか。大人が学んだことを、家に帰ってから子どもたちと一緒に話ができるとよいのではないかと思います。子ども同士で学ぶこともとても大事なことであると思えますが、そこに大人が入って一緒に同じことを学ぶことも大事であると思えます。

⇒素晴らしいアイデアだと思います。町のみんなで北方科を作り上げていく、バージョンアップさせていくという、そういった視点で進めていけるとよいと思えました。

○現在PTAでも、開校に向けてPTA準備委員会を設けて、様々な内容の検討を進めています。開校前だけでなく開校後も、北学園PTAと南学園PTAがお互いの交流の場として、開校までに決めた内容を開校後もそれが実践されているか、うまく進めることができているかを話し合い、定着するまではそういった会議を実施していきたいと思えます。PTAも改善を重ねながら、学園とともに成長していきたいと思えます。またみなさんのご意見を頂戴したいと思えますので、よろしく願います。

○タブレットを長時間使用したり、使用の際の姿勢が悪かったり、また、プロジェクターを使う時にはカーテンを閉めて教室も暗かったりすることもあり、子どもたちの視力の低下や姿勢が気になります。逆にタブレットが配布されたことにより、学校には行けないけ

れど自宅にいながら子どもたちの輪に入れるようになったことは非常によいことであると思います。また、英語教育については、先生方の学ぶ機会を多く設けたり、子どもたちが楽しく英語を使うことができるように英語フェスティバルを実施するなど、コロナ禍であっても工夫して進められているのは素晴らしいと思います。北方学園クラブについても、今年度は9月に指導者研修会を実施されるなど着々と進められており、今後に期待したいと思います。また、「野球」と「ソフトボール」が準備クラブとして活動されており、他の団体にもこの動きが広がっていくとよいと思います。こども園のスモックは動きやすそう
でよいと思います。町立こども園は幼保連携認定こども園になるということで、北方町では今までにない施設となりますので、慎重に進めていただけるとありがたいです。

⇒北方町の児童生徒においても視力の低下がみられます。6月議会でもその件で一般質問があり答弁しました。校長会でも資料を出し周知徹底させていただきました。これが、タブレットのせいなのか、コロナ化において在宅で過ごすことが多いからなのか、タブレットの配布も一つの要因ではあるかもしれませんが、今後も視力低下については見届けていなくてははいけないと思っています。

○進捗状況や各部会の報告を聞いていて、学園が始まるのがワクワクしてくるというか、よくここまで準備されたなということと、この会では発展的な意見が多く出て素晴らしいと思いました。先生方も大変ご苦労されたと思い、頭の下がる思いでした。9年間のカリキュラム検討委員会について、私もカリキュラムを見せていただきましたが、どの学年で何を学ぶかということが一覧になったものはよく見かけますが、今回作成されたものの素晴らしいところは、それだけではなくて、それがどういう力なのかと、どの教科と関連がしているのか、あるいはどの学年と関連がしているのか、関連を結び付けたところで、教師がそれをもとに非常に見通しを持った指導ができる、あるいは難しい時には立ち戻って指導できるということは非常に有効的だと思いました。今後、評価が関わってくるときに、評価というどうしても教師が子どもを評価する評価に偏りがちですが、学習者である子どもが自分で自分の学習を評価することがとても大切だと思います。そうした中で、英語教育推進部会で作成されるCan-Doリストが非常に参考になるかと思っています。Can-Doリストは子どもたちが見ても、自分はここができるようになったとか、まだこの力が弱いなどが分かり、9年間のカリキュラムの中に今後これを発展させていく場合に、例えば、算数で割合が非常に苦手であると言われていたが、割合の単元では数量関係をとらえるとあり、それはどういうことができることなのかにより具体的になって、子どもが見ても活用できるものという視点を1つ持たれるとよいと思いました。その中で参考になるのが、全国学力学習状況調査であると思います。10年以上の継続的なものがありますし、指導改善資料もたくさん出ておりますので、例えばこの単元のこのところは過去にこういう問題が出ておりこれをやってみるとよいというものがあると、算数や数学が専門でない先生も試しにやってみようかということでより使えるものになると思います。国語と算数・数学はそういった資料が豊富にありますので、それを利用されるとよいのではないかと思います。北方科の年間指導計画で時数が15時間とあり、他教科との

関連の中で、ある学年は生活や総合と関連するものもあり、またある学年は総合が入っていないところもあり、北方科で学んだことをもとに総合学習で探究的な学習に発展するものがたくさんあると思いましたので、北方科で確立しておいたものをさらに総合で深めるという学習をしていくとよいと思います。全国的にこのような独自の教科を作られた学校も実践としてはありますが、どうしても先生方にとっては、教科が1つ増えたということで負担がすごく大きくなってしまうと、ここで増えた分は他で時数を減らすわけですから、北方科の学習についてさらに特に総合などをもっと活用するとよいと思います。その時間数はまだみえていませんので、やっていきながら作られるところかなと思います。プラスだけではなく、マイナスも考えながらカリキュラムを作られるとよいと思います。

○スタート委員会が設けられ、これにより具体が見えてきて、大人も子どももこれからいよいよ現実味が帯びてきて、ワクワクし期待がすごく膨らむということを具体的にやられていると感じました。これからスタート委員会で大事にしていかなければいけないことは、スタートするまでのスタート委員会と、スタートした後もこのスタート委員会が必要だと思います。開校時までに必要なことと開校後に生み出していくことがあると資料の中にも書かれていますし、さらに開校後に生みだしていくといっても開校するまでほかっておいてはいけないことがあり、ある程度お膳立てして温めておき実際に学校が動き始めてから一緒に歩みだして作っていくものがあるため見届けが必要であると思います。学校が始まるまでのところはみんなで見えていきますが、学校が始まってからは学校に任せてしまうとなると、学校は人事異動で先生方が入れ替わりますが、子どもや地域の方はかわらないため、長い目で見たときにスタートした後までつながっていくものが大事であると考えます。よって、このスタート委員会が中心になって繋がっていくとよいと感じました。

義務教育学校で一番期待していることは、小中の先生の垣根がなくなることです。小学校の先生も中学校の先生も義務教育の9年間を見通すということを大事にはしていますが、目の前に見える子どもたちのことしか分からないので、中学校の先生は小学校のことはよく分からないし、小学校の先生も中学校にいったらどうなっていくのかなど見届け助言をする余裕がありません。同じ校舎の中で先生方が生活するということは、当然同じ子どもたちを見ることになるため、そこで子どもと関わるうえで小と中の垣根を飛び越えていく先生方の意識が変わることに大変期待しています。心配されるのは、北方町は先生方の異動が激しく、最初の願いや大事なものの中身が抜けがちになりますので、今後、先生方のキャリア形成のための人事もあります。新しい学校を立ち上げるための人材確保や人材育成が必要であると感じますので、人事異動にはルールがありますが町教育委員会とも連携を図りながら検討を早めに進めていきたいと考えています。

9年間のカリキュラム検討委員会の中で大変素敵だなと感じたことは、「町内小中学校の教員によるアンケート結果より、つまずきの様子と予想される原因を把握しよう」というところです。どうしても全国学力学習状況調査の結果から割り出してしまうことが多く、子どもたちに関わっている先生方自身の感覚的な部分や実感的な部分などの一番身近にいる先生方の捉えがおざなりになっていることが多いので、先生方によるアンケート結果を

大事にしているところを生かしてほしいと思いました。その反面、全国学力学習状況調査の結果は膨大なデータが蓄積されており、これも使えるデータであり、正答率だけではなく類型分けされていますので、内容的なつまずきというよりも見方や考え方で何につまずいているのか、表現力もテストの点数に現れてはこないが、現れてくる前に何につまずいているのか、どんな力を広げてあげれば子どもたちの可能性が広がっていくのかがこれで結構見えてくると思いますので、全国学力学習状況調査の結果と先生方によるアンケート結果をうまくリンクさせて、共通な部分と、逆に違う部分については何か理由があると思いますので、そういう点をさらに詰めていくと子どもたちに力がつくのではないかと感じました。

先生方の小中の垣根が取れて、1つの学校を9年間みんなで創り上げていくことに大いに期待しています。

- 子どもの生活支援や心の支援などの教育相談的な視点であまり提案がないと感じました。こども園との連携や15年間ということ考えた場合、同じ状態で人間関係が続いていくときに、家庭の問題などの生きていくうえでのつまずきというものがあると思いますが、その支援の方向性が視点として加わるとよいと思いました。

北方科の先行実践で岐阜農林高校の生徒が関与されたという話もありました。先ほど地域の方も北方科について学ぶ必要性があるというお話もありましたが、例えばコミュニティを考えた場合に、北方中を卒業した高校生や大学生、地域の大人たちの関与があるとコミュニティスクールという観点からもすごい意義深いと思います。生涯学習センターの講座などで学ばれたことをさらに学校で子どもたちに還元するといった交流があるとよいと思いました。そうすることにより地域の方も含めて、北方への愛着を上げていくことができるのではないかと感じました。

北方学園クラブについて、学校の先生以外の指導者が関わっていく中で1つ重要なのはコンプライアンスです。学校の先生ならやらないような接し方をしてしまうという問題があると県の部活検討部会でも言われており、そういった点でいうと、研修の中にそういった内容があるとよいと思いますし、クラブを作り上げていく観点でワークショップ的に教員と指導者が話し合いながらどうやってクラブを作っていくのかということを考えていけるとよいと思います。

- 9年間のカリキュラムについて、義務教育学校ならではの仕組みを生かした子どもの学び直しやもう一度自分の学びを振り返って次の学びを作るという仕組みを作ろうというのは螺旋型のカリキュラムの本来の姿です。子どもの具体的なつまずきについて、先生方の経験を基にして考えておられるのは大変重要なテーマであると思います。学園が始まってから、個々の子どものつまずきについて先生方で具体的に話し合ってもらいたいと思いますし、先生方によってつまずきの捉え方がかなり違うと思いますので、そのあたりを掘り起こすところすごく意味のあることだと思います。中学校の先生が小学校に入り込んで小学校の教育課程を理解したり、小学校でやっておくとよいことの提案をしたり、小学校の先生も

中学校の先生の授業を見に行ってみるとか、例えば中学校の理科の先生が小学校の理科の教科書をじっくり読んで、こういうことを学んでいるので中学校でも小学校でやったことをもう一度振り返る場を設けるとか、つなげる系統というのを自分の授業の中で作っていくとか、これからいろんな動きが出てきて、北方の子どもたちが非常に参加度の高い、一部の子どもで授業が進められるのではなく多くの子どもが参加できる場を作っていく、そういう意味での本来的なインクルーシブ教育をしていく中では大事なテーマであると思います。先ほどスタート委員会は学園が始まってからも必要であるという話がありましたが、9年間のカリキュラム検討委員会も始まってからも大事な役割を担う委員会であると思います。つまりはカリキュラムを改善すれば解消されるというそういう単純なものではないという側面もあります。授業で子どものつまずきを見ていますと、つまずきとか分からなさや疑問を自分の言葉として先生や他の仲間の子どもたちに臆することなく発することができないというか、つまずきや分からなさを隠してしまうというか、先生も「分かった？」と聞き、子どもたちは「分かった」と言うけれど、よくよく聞いてみるとあまり分かっていないということがあります。教師はそのあたりを不問に付してしまう、さらっと流してしまうことがあるので、つまずきを子どもが意識できるような、分からなさを自分で意識して臆することなく仲間に発して共有化できるような、他の子たちもそのつまずきについて一緒に考えていくと、きっとその子も大変勉強になる、そうした授業づくりとか学級づくりはインクルーシブ教育の本堂だと思っておりますので、ぜひそういった点についても考えていくのが、9年間の中で子どもを育てるカリキュラムを基盤にしながらそういう学びの場を作っていくことが、参加度の高い授業づくりとして非常に重要だと、これは北方町の義務教育学校ならではの仕組みを生かした授業づくりになると思いますので、ぜひ期待しています。

北方科は地域学習であり、地域学習を2つの方向でとらえています。1つは子どもたちが生活している地域を学びの対象として取り上げる、社会科とか総合や生活科が地域を特に正面から取り上げる教科であり、もう1つはどんな教科においても地域を重視するという、どんな教科や領域の学びにおいても1つの学習内容の習得にあたり、地域とか子どもの生活の中にあるものを1つ手掛かりにしながら学習に活かすという、そのことによって子どもの考えの具体性や多面性を保障していくという方法原理としての地域学習、それは北方科の中に非常に完結しているテーマであると思えました。それをやっていくと何が期待されるかという、先生が用意した教材だけで授業をやるというのではなく、子ども自身が自分の経験とか教材を持ち込むということに意味があると思います。子ども自身が自分の今までの経験とか知識を持ち込んでだれもがみんなの前で出すと、授業の中で多様性が生まれ、それをお互いに交換すると、算数とか体育ではなかなか活躍できなかった子が北方科の中で活躍できる、自己肯定をできる場として北方科が成り立つということがあると思います。そういう意味で北方科についてこれからも取り組んでいただきたいと思えます。すぐに成果が出るという訳ではなくて、バージョンアップを常にしていくことがすごく大事であると思います。そのために先生方も教科書はあるけれど素材研究というか先生方が地域探索をすることが大事であると思います。先生方が北方科の探究者であるという

ことが非常に重要なことになってくると思います。全国的に見ても、非常に必要な意味がある動きを示している可能性があると思いますので期待していますし、今後も先生方と一緒に考えていきたいと思っています。

委員長：以上で協議を終了する。

委員長：最後に、その他の事項について事務局に説明を求める。

事務局：事務連絡として、次回の委員会の日程について説明する。

委員長：以上で本日の会議を終了する。（11時20分終了）